

令和5年度愛知県総合教育センター教育研究調査事業について

研究部

1 研究の趣旨

学校の現状に即した教育課題及び教育行政上の今日的な課題について、学校・教育委員会各課との連携の下に、中・長期的な展望に立って、それぞれの課題に応えるための先導的な研究を進め、学校における教育実践の充実に寄与する。

総合教育センターにおける教育研究調査事業の位置付けを明確にして、実態調査・課題把握、研究実践、成果の普及・活用という見通しをもって研究を進める。

この趣旨に基づき、研究調査に関する重点を次の3点とする。

- (1) 学校の教育課題及び教育行政上の今日的な課題を探り、それに応える。
- (2) 研究と研修との連携をいっそう図り、研究成果を研修講座の充実・改善に生かす。
- (3) 研究成果の発信と学校現場への普及・活用を図る。(研究発表会、研究紀要、ウェブページ、研修講座、出前講座等)

2 研究領域の構成

研究の趣旨の下、次に示す2項目の領域を設定し、各年度に研究すべきテーマ及び内容を検討の上、決定していく。

令和5年度の教育研究主題は8件である。

(1) 教育課程及び学校の諸課題に関する研究(5件)

学習指導要領の特徴的な内容の効果的な実施と実践活動を支援する研究、教育相談上の諸課題に対して事例の分析や支援の在り方を探る研究、喫緊の教育課題に関する実態調査と分析及び最新の動向を踏まえた教育活動の推進に関する研究

(2) 教科等の指導の充実に関する研究(3件)

教科指導の現状把握と指導上の課題について分析し、教材、指導法を開発するとともに、「確かな学力」の育成、指導と評価の一体化等、各教科の教育課題に対応する研究

3 研究形態

共同研究：理論の検証や実践のために、所員と研究協力委員または研究協力校、協力団体と共同で研究を進める。

所内研究：当センター所員のみで研究を進める。



令和5年度教育研究調査事業概要

領域Ⅰ「教育課程及び学校の諸課題」

領域	番号	研究主題	研究内容
教育課程及び学校の諸課題	1	新学習指導要領を踏まえた学習評価の在り方に関する研究	新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価の在り方を研究することで、効果的に指導と評価の一体化を図り、学習指導の改善に生かす。
	2	地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築に関する研究	教育課程の共通化やICT機器を最大限に活用した「教科・科目充実型」の遠隔授業の実施などにより、中山間地域等に立地する高等学校において、生徒のニーズに応じた多様な教科・科目の開設や習熟度別指導を目指す。
	3	自ら学ぶ力の育成に関する研究	子供たちが「学びの楽しさ・よさ」を実感するという観点の下、今までの学校の教育活動やその手だて等を再検討・再構成することによって、子供たちの「自ら学ぶ力」を向上させることを目的とする。特に、「学びの楽しさ・よさ」を実感させるための手だてや、子供たちが「自ら学ぶ力」を発揮していることを見取る方法について探ることで、子供たちの学びの質の向上につなげていく。
	4 (新規)	「主体的・対話的で深い学び」を実現するための探究的な授業づくりに関する研究	児童生徒が、習得・活用・探究の学びの過程の中で自ら課題を見つけ、仲間と協働して解決したり、新たな考えを形成したりするなど、探究的・創造的な活動をする授業を通して、学校の教育目標の実現を図る。
	5 (新規)	特別な支援を必要とする子どもの卒業後の生活へのスムーズな移行に関する研究	特別な支援を必要とする子どもの卒業後の生活が充実するための仕組みについて研究を行い、卒業後の進路先へのスムーズな移行に資する。

領域2 「教科等の指導の充実」

領域	番号	研究主題	研究内容
教科等の指導の充実	6	全国学力・学習状況調査に関する研究	愛知県の学力・学習状況調査の結果を分析し、義務教育の充実に関する基礎資料とする。
	7	県立高等学校教育課程課題研究（国語）	高等学校教育課と総合教育センターとの共催の事業である。 学校における教科指導の現状把握と指導上の課題等について研究する。
		同（地理歴史、公民）	
		同（数学）	
		同（理科）	
		同（英語）	
		同（情報）	
		同（産業教育（農業、水産））	
		同（産業教育（工業））	
	8	情報教育の充実に関する研究 （ICT授業活用に関する研究）	ICTの特性を把握し、各教科における効果的な活用ができる授業場面等について研究する。またプログラミング教育においても、効果的な指導方法について研究・実践をする。研究成果を総合教育センターのコンテンツとして公開する。

